

社団医療法人 養生会 月刊発行新聞

かしま HOT 通信

ほつと

HOT
ほつと
hot

通信

ホームページ <http://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、
QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

2月号

Vol.337

令和3年(2021年) 2月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室

■発行/社団医療法人養生会

〒971-8143

福島県いわき市鹿島町下藏持字中沢22-1

tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。

かしま病院広報企画室(江坂 宛)まで

r-esaka@kashima.jp

1
2

巻頭特集

『医療安全の取り組み』

3

「ひんがら目」の
山根先生にインタビュー

4

コラム ひんがら目(164)
『コロナ禍での自粛要請に思う
ヒトから人間になったのに
また、ヒトに戻るのですか?』

呼吸器科 部長 山根 喜男

ようこそ家庭医療へ!

リハビリPOST

元日の病院給食のご紹介

かしま荘通信



巻頭特集

医療安全の取り組み



医療安全管理室スタッフ

医療安全の大きな役割は、患者さんの安全・安心を確保することであり、同時に職員の安全も守ることになります。そのための院内体制づくりを、医療安全管理室が中心となってすすめています。

当院の医療安全管理室の体制は、室長である病院長をはじめ、医療安全専任の医師、医療安全管理者、

事務担当2名、医療機器安全・医薬品安全・医療放射線の各管理責任者で医療安全に関する活動をしています。主に週1回のカンファレンス、院内ラウンジ、セーフティマネージャー会議などの活動を行っています。



医療安全の役割と体制について



次いで大きな医療事故が発生した1999年(医療安全元年)以降、医療法などで医療機関の医療安全管理体制が整備され、国をあげて対策が取られてきました。2004年6月、当院に「医療安全管理室」が設置され、専従の医療安全管理者を配置し医療安全に関する様々な取り組みを行っています。今回は、その取り組みを紹介します。

医療安全の活動について

①院内ラウンド

ラウンドのスケジュールを立て、毎日ラウンドしています。ラウンドチェック表を基に、医療行為や確認行為が適切に行われているか、職場環境に問題はないか、患者の療養環境はどうか、マニュアル通りに行動しているか等を見て回り、気になる点はセーフティマネージャーと検討しています。

②全職員対象の院内研修

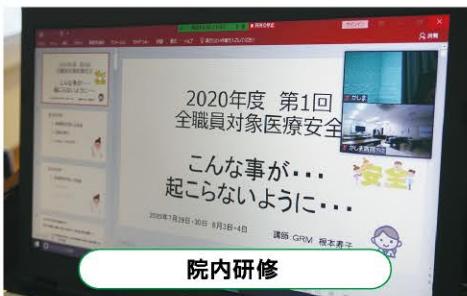
年に2回、委託業者も含めた全職員を対象に開催しています。今年度の1回目は7月に実施しましたが、新型コロナ感染防止対策のため、研修の日程を15回にわけて1回あたりの受講人数を少なくしたり等の対策の他、会場を3つに分けてオンラインでの同時研修も試みました。参加率は92%と、日程を細かく分けたことが結果的に多くの職員の受講につながりました。

③インシデントの情報収集

「インシデント」とは、日常診療の場で誤った医療行為等が患者さんに実施される前に発見さ



院内ラウンド



院内研修



情報収集

④多職種でのカンファレンス

週に1回、医療安全に関する各担当職員が集まり、報告されたインシデント事例について事故の背景の確認や対策を話し合い解決していきます。

院内の対策を検討し院内にフィードバックを行います。

れたもの、あるいは、誤った医療行為が実施されたが結果として患者さんに影響を及ぼすに至らなかつたものをいいます。当院では「CLIP（インシデント報告分析支援システム）」を使用し、事例報告をしています。インシデント報告に対して医療安全管理者がひとつずつ対策等のコメントを入れたり、事例の分析、再発防止

ント事例を、レポート形式で全職員にフィードバックしています。医療安全レポートはA4で2枚の内容で、事例報告件数、各部署の医療安全の取り組みの良い事例の紹介（good job）、確認の重要性の周知、各事例の分類ごとの件数を報告しています。

⑤医療安全レポートの発行

毎月発行し、院内でのインシデント事例を、レポート形式で全職員にフィードバックしています。

2019年より「確認の周知」と「転倒・転落に関する医療安全」の2つを目標に取り組んできました。そのため、全職員の研修は「確認」を基本テーマとしています。確認は、医療者だけではなくどの部署においても基本となることです。確認行為が習慣化するようこれからも呼び掛けていきたいと思います。

思い込みが原因のインシデントも多いので、それをなくすために得しております。

読者の皆様へ

当院は医療安全対策加算1を取っている地域の医療機関と「医療安全ネットワークいわき」を結び、医療安全に関する情報の共有や、事故防止対策・安全マニュアルに関する事の相談などを実行しています。これからも密な連携のもと、安全・安心の医療を提供していくことに努めていきたいと思います。

また、当院では医療安全相談窓口を設けており、医療の安全に関するご質問やご相談、ご意見などをお聞きし、不安なく医療を受けていただけるよう対応しています。お気軽にご相談ください。

は職員間のコミュニケーションも大事だと思います。気づきや確認を促すためにも、「ラウンド時の声掛けを増やしたい」と思います。

今後の抱負について



医療安全相談窓口

相談担当

医療安全管理者

開設時間

月～金曜日 8:30～17:00

※土・日、祝祭日を除く

その他

相談内容について秘密を厳守します。
また、相談されたことにより、不利益を受けることはありません。

Interview



「ひんがら目」の 山根先生にインタビュー

毎

月当誌のひんがら目を
執筆している呼吸器内

科の山根喜男先生。かかり
つけの方は顔なじみだと思います。

そこで今回、医師を目指すこ
とに至った経緯や、ひんがら
目への思いについてインタ

ビューを実施しました。

基本情報一問一答

Q 生年月日と年齢は?

1949年11月23日生まれの71歳

Q 出身地は?

鳥取県鳥取市

Q 自身の長所と短所は?

長所：論理的に物事を考える、とことん考える
短所：融通が利かない、お世辞が言えない、不
条理を見過さない（長所＝短所）

Q 趣味は?

野球、（へボ）碁、麻雀　いずれも今はやつて
いない

Q 医師を目指した経緯を教えてください。

始めて医師を目指していったわけではなく、
数学が好きだったので数学者を目指していました。
中学から高校出身の秀才に出会い、
たがいに大学で灘高校出身の秀才に出会い、
その道ではとても敵わないと思い諦めました。
中学から高校の数学教師になることも考えまし
たが、こちちは狭き門のため敬遠しました。
就職活動では国家公務員の試験に合格して、
通産省から声がかかつっていたものの、本命であ
る電子技術総合研究所の合否を待っている間に
不採用。その挙句、本命は補欠でした。

父親は他の省庁への入省を勧めましたが、友
人が医学部編入試験の話を聞き、医師になれ
ば患者と一対一の関係の中で少しでも人の役に
立ちますし、不衛生であった自分の健康も管理
できると思い、医学部編入を決意しました。呼
吸器系を選んだのは呼吸生理学に数学が生かせ
そうだと考えたからです。

今思えば、たどり国家公務員になつたとして
も、世渡りが下手な私は、上層部の言いなりに
なるか、主張をして潰されるかの二択であるの
が目に見えているので、編入の道を選んでよか
ったと思っています。

Q ひんがら目の思いを教えてください。

国の方針を基に、組織とそこに所属する私た
ちが動いているわけですが、その方針に異を唱
えたい場合はどうすればよいのでしょうか。反
発すれば、冷遇されるのは目に見えています。
ひんがら目は、そんな普段思つていても言えな
いような思いを言語化して、提示する場である
と思っています。たまに読者の方からの投書が
あり、叱責を買つことがあります。多くは
普段言えない事をよくぞ言つてくれたとの共
感や励ましです。

今後も個人的追憶を織り交せて皆さんに楽し
んでもらいたいながら、図に乗らないように、いろ
いろな人の意見や、書いたものを参考にして、
暴走しないように注意して執筆したいと思って
います。ひんがら目を掲載して下さるかしましま
院に感謝しています。

ひんがら目(164)



ひんがら目

とから始まります。電話診察では微妙な情報
は入りません。TV画像を併用した診察では
視診聽診は可能ですが、送り主からの限定的な
情報に止まります。五感とは、視覚、聴覚、
触覚、味覚、嗅覚です。味覚と嗅覚は比較的
原始的な感覚のようで診察者が利用する事は
滅多にありませんが、食べ物が安全なのかも
うか、腐っていないなど判別するには必須の
感覚です。生きてゆくには非常に大切な
感覚です。

会議などはリモートでと言われますが、映
像を通した会話では相手のリアクションがよ
く分かりません。

感染対策として接觸を避け
るというのは基本中の基本で
はあります。社会生活をする
限り完全な孤立は不可能で
す。そもそも腕力では他の動
物に劣る人類が繁栄してきた
のは集団的協力があるからこそ
です。ヒトとしては弱くても
人間として協力して強力にな
ります。ヒトとしては弱くにな
らえたのです。

「コロナ感染の第3波の爆発的拡大のため、10以上の都府
県で緊急事態宣言が発令され、
県を越えた移動の自粛が求め
られています。1ヶ月続ける

月くらいかかると言っています。長期間の自
粛がもたらす社会的経済的影響は甚大です。

軽症、無症状の濃厚接触者を見つけ出して
は隔離して病床を占拠しておきながら、他方
で重症者の病床が逼迫している悲鳴をあげ
ているのは奇妙であり、バランス感覚に欠け
ているように見えます。

「コロナを2類扱いの指定感染症にしている
限り、保健所は疲労困憊し、医療体制は逼迫
します。この際、2類扱いを取り下げて、活
動制限をほどほどのして人間らしい社会にして
欲しいものです。

医療の現場では、電話診療などが勧められ
ています。本来、診療とは視診・触診・打診・
聴診などにより五感を働かせて診察をするこ

（呼吸器科 部長 山根 喜男）

ようこそ 家庭医療へ!

～いわきに生きる家庭医療成への挑戦～



皆さん、ぶつけたり転んだりしていないのに発症した前胸部の痛みで医療機関を受診し、X線撮影や心電図、血液検査などで異常がなく、結局痛みの原因が不明だったという経験はありませんか？ 1本の指で痛みの部位を示すことができて、そこを押すと痛みが誘発されるなら、それは肋軟骨炎かもしれません。

肋軟骨炎は、前胸部の真ん中にある胸骨と肋骨をつなぐ肋軟骨を押すと痛むもので、40歳以上に多くみられ左側に多いです。また、肋軟骨炎のうち痛む部位に発赤や腫れが確認されるものをTietze（ティーツエ）症候群といい、こちらは40歳未満の女性に多いです。

前胸部が痛むため、心臓などの内臓疾患を心配して受診される方が多いですが、一般外来における胸痛の約3割は筋骨格由来の痛みで、そのうち14%が肋軟骨炎と言われています。くしゃみや咳、過度の運動後にみられることが多く、体動や深呼吸で悪化します。



第119回

転倒予防について

が残ってしまったり、最悪の場合は死に至ることもあります。健康寿命を長くするためには、日常の中で転倒を予防する取り組みが必要です。転倒予防のポイントは①身体機能を鍛える②転ばない環境を整える、のふたつです。

身体機能を鍛えるための、転倒予防の体操を紹介します。まずは、かかとの上げ下げ運動です。壁に手をついて立ち、3秒かけてかかとを上にあげ、ゆっくり下ろします。5回～10回ほど、自分の体

高齢者は、筋力の低下や心肺機能の低下、体力の低下などで転びやすくなります。転倒することで、骨折をして歩行障害となったり、「また転んでしまうかも」という恐怖心から閉じこもりがちになってしまいます。また、転倒の際に頭をぶつけて重い障害

第132回 心臓が心配なんです…

診療部 石井 敦



肋軟骨炎の治療は、痛みが治まるまで胸部の筋肉を使いすぎないようにして、痛みが強ければ消炎鎮痛剤で対症療法を行います。命にかかるような重大な疾患ではなく、多くは自然治癒しますので、過度に心配しないようにしましょう。

肋軟骨炎の他に前胸部が痛くなる疾患として precordial catch syndrome があります。英語の病名を意訳すると「前胸部がつかまるような痛みに襲われる症候群」という感じです。小児期や思春期など若年者に多く、安静時に突然、限局した範囲に突き刺すような胸痛に見舞われ、呼吸で悪化するため、深く息が吸えない感じになるのですが、数秒から数分以内の短時間で治ります。肋軟骨炎と同様、各種検査で異常がなく原因は不明ですが、胸の筋肉のれん縮（つっぱり、こむら返り）説が有力で、姿勢が悪いことが関係しているといわれています。痛みが短時間で治まるため、特別な治療法はありませんが、肋軟骨炎同様に重篤な疾患ではなく自然治癒しますので、心配し過ぎないことが大事です。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。

調に合わせて行いましょう。この運動は、ふくらはぎの筋肉を鍛えてつまづきにくくする効果があります。ふらつきがある場合は椅子に座って行いましょう。また、足の指を鍛えることで、バランス能力が向上するとされています。足の指でじゃんけんをしたり、床に置いたタオルを足の指だけで手繰り寄せる運動をすると良いでしょう。

家の中を転ばない環境に整えることも必要です。段差がある場所に手すりを付けることも環境整備の一つですが、簡単に取り組めることもあります。例えば、床にものを置かないようにする。カーペットの縁をめくれないように固定する。電気のコードも足が引っかかることがあるので、カバーを付けたり隠したりする対策が必要です。

以上のことを参考にして転倒防止に役立ててください。

作業療法士 鳥居 詩乃



かしま荘通信

獅子舞



1/1(金)

令和3年1月1日、新年のお祝いとして職員が恒例の獅子舞を披露いたしました。終了後は各部屋を回って利用者様の邪氣払い。皆様、新型コロナウイルスに負けないで、今年も元気にお過ごしいただきたいと職員一同心から祈っております。

元日の 病院給食のご紹介

朝



お雑煮

昼



お節

夜



茶碗蒸し
富士山ケーキ

朝はお雑煮、昼はお節、夜は茶碗蒸しに富士山ケーキが提供されました。食事のたびにお正月気分が感じられる献立でした。

